



第94回学長定例記者会見

日時：平成29年12月22日（金）10：30～11：00

場所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟4階 4F会議室

※テレビ会議システムにより、記者会見の様様を同時配信

受信場所：東千田キャンパス 総合校舎 1階会議室

※Ustream および YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 情報科学部長に木島 正明氏（現首都大学東京 教授）が就任することが決定しました  
※学長定例記者会見に木島氏出席
2. スウェーデン ルンド大学との大学間交流協定及び  
ユネスコとのインターンシップに関する協定を締結しました
3. 広島大学がインド6大学・機関と覚書を締結し、高度イノベーション人材を養成します
4. 本学は国際放射線防護委員会（ICRP）、福島立医科大学、長崎大学と覚書を  
締結しました

【お知らせ】

1. (1/20)文部科学省委託事業「教科教育モデルコアカリキュラムの策定事業」報告会を  
開催します
2. (1/20,2/3-4)「放射線災害・医科学研究拠点」主催の  
ふくしま県民公開大学(福島)と国際シンポジウム(長崎)を開催します
3. (1/27-28)文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム（平成23年度採択）  
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム  
第7回国際シンポジウム「放射線災害復興学における課題と展望  
～transdisciplinary approach の実践～」を開催します
4. (2/4)広島大学大学院文学研究科主催  
次郎丸太鼓・広響による「リテラコンサート」を開催します

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時：1月29日（月）

場所：霞キャンパス



平成29年12月22日

情報科学部長に木島正明氏（現首都大学東京 教授）が  
就任することが決定しました

平成30年4月に開設する情報科学部の学部長を、下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

記

氏名（ふりがな） 木島 正明 （きじま まさあき）  
任期 平成30年4月1日～平成34年3月31日

【お問い合わせ先】

広島大学情報科学部設立準備室  
担当：兒玉  
電話：082-424-7611

広島大学情報科学部学部長に就任予定の木島と申します。宜しくお願い致します。

学部長就任の抱負ということで、情報科学について少しお話させていただきます。

「データに基づいて現実の問題を明らかにし、それを元に現実を改善する」という考え方を提唱したのは「近代統計学の父」と呼ばれるケトレーですが、それを最初に実践し医療衛生改革に貢献したのは白衣の天使と呼ばれたナイチンゲールでした。このためイギリスではナイチンゲールは「統計学の母」とも呼ばれています。

以降、統計学だけでなくいろいろな分野にこの考え方が広まり社会に大きく貢献して来ましたが、近年の情報科学の進展により格段に応用範囲が広がりました。成功例を挙げると、囲碁や将棋ソフト、自動運転、金融におけるフィンテックなどです。アルファ碁と呼ばれる人工知能が名人と同じあるいはそれ以上の力を発揮できるのは、実は、ケトレーの教えである「データに基づいて局面を明らかにし、それを元に最善手を探る」ということを突き詰めた結果です。他の多くの分野でもこの基本的な考え方を突き詰めることで技術革新を起こすことが可能です。

もちろん、これが可能になったのはコンピュータの計算速度が飛躍的に速くなったからですが、大規模データ（ビッグデータ）を効率的に処理したり計算したりする技術、およびデータのコンテンツを分析理解した上で問題を解決する能力の向上も必要です。新学部では前者をインフォマティクスコース、後者をデータサイエンスコースで学びますが、これらは車の両輪であって、どちらが欠けても前には進めません。情報科学部では、この2つのコースの有機的な学習を通して「データで未来を拓く人材の養成」を目指して参ります。

ところで、データに基づく科学的な考え方を日本人は不得手として来ました。マスコミ等でAIの話題が取り上げられるようになり、ようやく社会に浸透しようとしています。データに基づく科学的な考え方の重要性が高校生を含む一般の方々に正確に理解されているとは言えません。このため、情報科学部で得られた科学的な知見や応用の可能性などについて広く社会に広報することに努めて参ります。

以上のように、情報科学には大きな可能性が潜んでいます。応用分野も多岐に渡ります。広島大学に新設される情報科学部はこの魅力あふれる分野を研究し、情報という切り口をとおして社会に貢献することを目指します。新学部長として、この目標達成のため鋭意努力して参る所存です。皆様方のご指導ご鞭撻をお願いして、私の抱負とさせていただきます。



平成29年12月22日

スウェーデン ルンド大学との大学間交流協定及び  
ユネスコとのインターンシップに関する協定を締結しました

広島大学は、12月12日にスウェーデンのルンド大学と大学間交流協定を締結しました。本学からは越智学長と佐藤理事・副学長他が現地を訪問し、トールビヨン・フォン・シャンツ学長とともに協定書に署名をしました。

ルンド大学は、1666年に設立されたスウェーデンの名門大学です。日本とスウェーデンのトップレベルの大学が参加し、共同研究を推進する「MIRAIプロジェクト」に、両大学が参加するなど交流を重ねてきました。今後も同プロジェクトでの取組等を通じてルンド大学との交流を重ね、本学の学術水準の向上に取り組んでいきます。

また、12月14日にはフランス・パリにある国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の本部を訪問しました。ユネスコのホン・コン人事部長とともに、インターンシッププログラムに関する協定書に署名をしました。

今回の協定締結により、本学大学院学生がユネスコの本部又は関係機関において6か月から1年間にわたる長期インターンシップを行うことが可能となります。将来、国際機関等での勤務を希望する学生にとって、魅力的なプログラムとなります。

今回の協定締結により、大学間交流協定は47か国・地域の287協定となりました。今後も大学の積極的な国際化を進めていきます。



ルンド大学との協定調印式



ユネスコ本部での協定調印式

【お問い合わせ先】

国際室国際部

国際交流グループ 是國

TEL:082-424-6045 FAX:082-424-6179



平成29年12月22日

広島大学がインド6大学・機関と覚書を締結し、  
高度イノベーション人材を養成します

広島大学とインド6大学・研究機関（インド工科大学デリー校、インド工科大学ムンバイ校、インド技術科学大学シブプール校、ビルラ技術科学大学ピラニ校、インド中央電子工学研究所、インド経営大学院アーメダバード校）は、このたび、革新技術を社会へ実装する高度イノベーション人材を養成するための国際教育プログラム実施協力に関する覚書を締結することとなりました。

インド6大学・機関はいずれも国内トップクラスであり、今後、本学との高度な教育交流・学術交流が期待できます。

この覚書は、文部科学省の平成29年度「大学の世界展開力強化事業～ロシア、インド等との大学間交流形成支援～ タイプA：交流推進プログラム（インド）」に採択された本学プログラム「先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム」の実施に関するもので、広島大学とインド6機関が、それぞれが持つ資源や機能等を活用して、学部生から大学院生までの幅広い教育交流プログラムを構築し、日印両国の架け橋となるリーダー人材の養成及び大学間の学術交流を推進するものです。

本学は、学長のイニシアティブの下で、研究・教育の強化、持続可能な発展を導く科学を推進する、新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN 2017」を展開しています。インド6機関との連携は、広島大学の国際化を大きく進めるだけでなく、本学の持続可能な発展への寄与の実践、学生や修了生が世界へ羽ばたくきっかけとなるものです。

つきましては、本覚書締結について、下記のとおり調印式を開催いたします。調印式の後には、インド6大学・機関及び本学の教育、研究の世界戦略についてパネルディスカッションを開催いたします。ぜひ取材いただきますよう、ご案内申し上げます。

記

- 【日時】 平成30年1月17日（水）12：50－17：00  
（調印式及びパネルディスカッション）  
※取材いただく場合は、事前に受付にお越しく下さい。
- 【会場】 広島国際会議場 地下2階大会議室「ダリア」  
（広島市中区中島町1番5号）
- 【使用言語】 英語及び日本語（同時通訳）

【お問い合わせ先】

ILDLP事務室 井上・竹原  
TEL:082-424-6152 FAX:082-424-6954

広島大学 平成 29 年度 大学の世界展開力強化事業（インド）  
先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための  
国際リンケージ型学位プログラム  
キックオフ会議（第一回 国際会議）

開催日時：2018 年 1 月 17 日（水） 12:50 - 17:00

会 場：広島国際会議場 ダリア

## 第一部：国際リンケージ型学位プログラム調印式

- 12:50-12:55 開会挨拶 越智 光夫（広島大学学長）
- 12:55-13:20 来賓挨拶  
湯崎 英彦（広島県知事）  
インド大使館参事（予定）  
国際協力機構理事（予定）  
進藤 和澄（文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室 室長）
- 13:20-13:40 世界展開力強化事業について 文部科学省（未定）
- 13:40-14:00 先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型  
学位プログラム概要説明  
プログラムリーダー 藤原 章正（広島大学大学院国際協力研究科 教授）
- 14:00-14:30 調印式

## 第二部：公開討論：教育と研究のグローバル化への挑戦

- 15:00-15:30 基調講演：インドと日本の科学技術外交の展望  
ギリシュ・サーニ（科学産業研究評議会 理事）
- 15:30-16:30 広島大学およびインド 6 大学からの報告：大学の国際戦略と展望
- 16:30-16:55 討論会 モデレーター 金子 慎治（広島大学大学院国際協力研究科 教授）
- 16:55-17:00 閉会挨拶 山本 陽介（広島大学理事・副学長）



## ILDP 会議参画大学・研究機関概要

大学名	国際交流 協定（大学 間）締結 年月日	備考
 <p><b>IIT-D</b> Indian Institute of Technology Delhi インド工科大学デリー校</p>	2014/3/18	1945年のインド工科大学設立構想のもと、1950年にカラグプルに設立された最初の工科大学をはじめとして、インド6地域(ボンベイ、マドラス、カーンプル、デリー、グワハティ、ルールキー)に工科大学が設立された。各工科大学は、インド工科大学協議会の総括のもと、それぞれ法人格、独自の組織を有している。2008年以降、これら7校に加え、ハイデラバード校など8校が加わり、現在は15校がインド工科大学となっている。インドでは、国家的重要な機関として位置づけられており、その研究水準の高さは、世界的に認められている。
<p>QS 世界大学ランキング 172位 QS アジア 41位</p>		
 <p><b>IIT-B</b> Indian Institute of Technology, Bombay インド工科大学ムンバイ校</p>	2018/1/17 (予定)	インド工科大学ボンベイ校は1958年に設立され、上記のとおり、インド最高学府 IIT16校の一角をなす。現在14の学科があり、約600人の教員と約10,000人の学生で構成されている。
<p>QS 世界大学ランキング 179位 QS アジア 34位</p>		
 <p><b>IEST-S</b> Indian Institute of Engineering Science and Technology, Shibpur インドシブプール工科大学</p>	2016/11/24	インドで2番目に古い歴史を持つ Engineering College である。革新的な世界水準の技術を発展させ、分野融合の研究環境を創生する世界的な教育研究機関となることを目指している。高等教育及び先進研究機関として機能しており、主要な活動は、知識の創生と普及であり、最新の科学技術を有し、社会のために革新的な技術開発を行う優秀なエンジニア、科学者及び企業家を創出することである。
<p>非 IIT の工学分野 トップ</p>		
 <p><b>BITS-P</b> Birla Institute of Technology and Science, Pilani ビルラ技術科学大学ピラニ校</p>	2017/12/10	G.D.Birla の支援により人文科学から工学分野を有する高等教育機関として、1964年にはそれまでに設立されたカレッジが統合されたインド随一のトップ私立大学であり、インド国内に3つのキャンパス、国外に1つのキャンパスを持つ。現在15の学科がある。
<p>インド大学ランキング (India Today) (2014) 6位 工学分野 (印国内) 私立大学1位</p>		
 <p><b>CSIR-CEERI</b> Council for Scientific and Industrial Research , Central Electronics Engineering Research Institute 科学産業研究委員会 中央電子工 学研究所</p>	2015/8/25	ニューデリーにあるインド政府科学技術省科学産業研究局直轄の科学産業研究委員会(CSIR)が統括している38研究機関の中の主要研究施設の1つ。1953年9月に当時のネルー首相によりピラニに設立され、1958年末より、電子工学分野を中心とした本格的な研究開発を開始している。インドにおいて、CSIR-CEERI は電子工学分野における中心的な技術開発拠点として国家的に重要な研究機関として位置づけられている。
<p>インド政府直轄の「CSIR」が統括する 38研究機関の1つで、 国家的に重要な研究機関</p>		
 <p><b>IIM-A</b> Indian Institute of Management Ahmedabadi インド経営大学院大学アーメダ バード校</p>	2015/10/6	インドに現在ある13の経営大学院のひとつであり、最初に設立されたインド経営大学院大学カルカッタ校から1ヶ月後の1961年12月に設立された2番目に歴史のある起業家リーダーを養成するビジネススクールのひとつである。また、マネジメント分野を中心に、経済学、公共政策を含む学際的な博士号プログラムである The Fellow Programme in Management (FPM)がある。レイ・カーンの設計による美しいキャンパスも有名である。
<p>世界の MBA ランキング (2015) 26位 (アジア : 3位、インド国内 : 1位)</p>		



平成29年12月22日

**広島大学は国際放射線防護委員会（ICRP）、  
福島県立医科大学、長崎大学と覚書を締結しました**

11月24日、広島大学は、国際放射線防護委員会（ICRP）、福島県立医科大学、長崎大学との覚書（MoA）を締結しました。

本学は、平成28年4月に福島県立医科大学、及び長崎大学とネットワーク型共同利用・共同研究拠点（放射線災害・医科学研究拠点）を設置しています。これらの連携大学と共にICRPとMoAを締結することで、福島第一原子力発電所事故からの復興に取り組む中で構築した協働関係を、グローバルに発展させることが期待できます。

ICRPは、放射線防護に関わる多様な分野の科学者等を委員とする非政府・国際組織であり、その勧告は、世界の放射線防護の基準となっています。同委員会は、これまでに、本学からインターンシップを派遣したり、主委員会副委員長ジャック・ロシャル氏に客員教授に就任いただくなど、人材育成における協働体制を構築してきました。

今後は、連携大学とともに、ICRPの放射線防護に関わる人材育成プログラムの開発を共同で推進する予定です。直近の活動として、平成30年2月10日から11日にICRP等が福島県南相馬市（包括協定締結済み）で開催する住民の対話集会には、本学大学院リーディングプログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」の教育の一環として、学生及び教職員を派遣する予定です。

**【お問い合わせ先】**

教育室コラボレーションオフィス  
フェニックスリーダー育成プログラム事務室  
TEL:082-424-2282 FAX:082-424-6821





平成29年12月22日

文部科学省委託事業「教科教育モデルコアカリキュラムの策定事業」

報告会を開催します

文部科学省委託事業「教科教育モデルコアカリキュラムの策定事業」は、「教職課程コアカリキュラム」で公表された「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に加え、「教科に関する科目」を含めた「教科教育モデルコアカリキュラム（英語を除く）」を開発することを目的としています。

本報告会では、本事業を実施した広島大学と静岡大学が、それぞれの地域と大学の特色を踏まえ、県市の教育委員会や大学教員のご協力を得て開発した「教科教育モデルコアカリキュラム」（案）を報告いたします。

教員養成に関係する多くの方々のご参加をお待ちしています。

【日時】2018年（平成30年）1月20日（土）9：00～17：00

【場所】広島大学 東千田キャンパス 東千田未来創生センター

※キャンパス内駐車場は使用できません。お車でお越しの際は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

【参加費】無料

【定員】300名

【お申込方法】

参加ご希望の方は、参加申込みフォームにてお申込みいただくか、担当メールアドレス（syoto-model@hiroshima-u.ac.jp）に参加希望者の氏名・所属・連絡先メールアドレスを記入しご連絡ください。

【お申込期限】平成29年12月26日（火）

※申し込み期限後の申し込みは、定員に達していない場合可能です。担当メールアドレスまでお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

広島大学大学院教育学研究科 初等カリキュラム開発講座

文部科学省委託事業担当事務室

TEL：082-424-7074

E-mail：syoto-model@hiroshima-u.ac.jp



2018年  
(平成30年)

1月20日 土

9:00~17:00

広島大学 東千田キャンパス  
東千田未来創生センター

〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89

参加費 無料

定員 300名

#### お申し込み方法

広島大学大学院教育学研究科 HP (<https://www.hiroshima-u.ac.jp/ed>)  
より本報告会参加申込みフォームにてお申し込みいただくか、担当メールアドレス ([syoto-model@hiroshima-u.ac.jp](mailto:syoto-model@hiroshima-u.ac.jp)) に参加希望者の氏名・所属・連絡先メールアドレスを記入しご連絡ください。

**申し込み〆切 12月26日(火)**

なお、申し込み期限後の申し込みは、定員に達していない場合、可能です。担当メールアドレスまでお問い合わせください。

# 「教科教育モデル コアカリキュラムの 策定事業」報告会

「学び続ける教員」を育成する小学校教員養成モデル  
コアカリキュラムの開発

本事業は、「教職課程コアカリキュラム」で公表された「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に加え、「教科に関する科目」を含めた「教科教育モデルコアカリキュラム(英語を除く)」を開発することを目的としています。

本報告会では、本事業を実施した広島大学と静岡大学が、それぞれの地域と大学の特色を踏まえ、県市の教育委員会や大学教員のご協力を得て開発した「教科教育モデルコアカリキュラム(案)」を報告いたします。教員養成に関係する多くの方々のご参加をお待ちしています。

お問い合わせ先

国立大学法人広島大学大学院 教育学研究科 初等カリキュラム開発講座 文部科学省委託事業担当事務室  
TEL:082-424-7074 E-mail:[syoto-model@hiroshima-u.ac.jp](mailto:syoto-model@hiroshima-u.ac.jp)

主催

広島大学大学院 教育学研究科 教科教育モデルコアカリキュラムの策定事業

# 「教科教育 モデルコアカリキュラムの 策定事業」報告会

## プログラム

### ○ 全体会Ⅰ 9:00~12:00

- 開会挨拶

小山 正孝(広島大学大学院教育学研究科 研究科長)

- 来賓挨拶

佐藤 光次郎(文部科学省教職員課長)(予定)

- 報告

#### 「広島大学作成 教科教育モデルコアカリキュラム案の報告」

木原 成一郎(広島大学大学院教育学研究科 教授)

#### 「静岡大学作成 教科教育モデルコアカリキュラム案の報告」

磯山 恭子(静岡大学教育学部 教授)

- 指定討論 谷口 直隆(広島修道大学人文学部 准教授)

- 質疑

- まとめ

### ○ 各教科分科会 13:30~15:30

### ○ 全体会Ⅱ 16:00~17:00

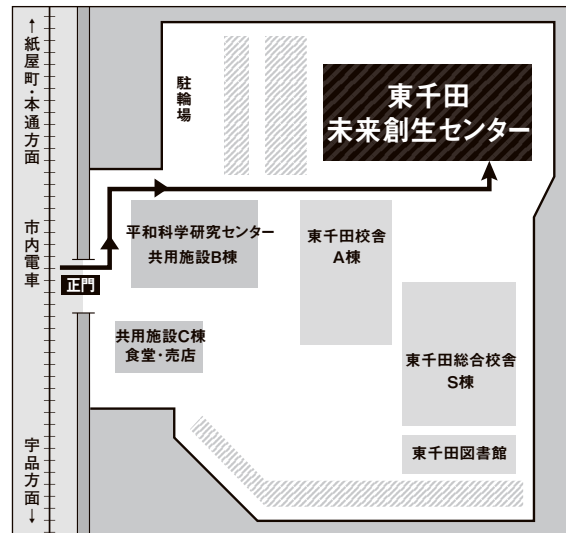
- 各教科分科会からの報告

- 総括

坂越 正樹(広島大学大学院教育学研究科 教授、  
文部科学省 中央教育審議会委員  
教員養成部会副会長)

- 閉会挨拶

木原 成一郎(広島大学大学院教育学研究科 教授、  
教科教育モデルコアカリキュラムの  
策定事業 実施責任者)



### 交通アクセス

#### ■バスをご利用の方

- 広島バス(50号(東西線) 日赤前下車 徒歩約2分  
JR広島駅~アルパーク方面行き

#### ■市内電車(広島電鉄)をご利用の方

- 日赤病院前下車 徒歩約3分  
【1号線】 JR広島駅~紙屋町経由広島港行き  
【7号線】 JR横川駅~広電本社前行き  
【3号線】 JR西広島駅~紙屋町経由~宇品二丁目/広島港行き

※キャンパス内駐車場は使用できません。

お車で越しの際は、近隣の有料駐車場をご利用ください。





平成29年12月22日

「放射線災害・医科学研究拠点」主催の  
ふくしま県民公開大学(福島)と国際シンポジウム(長崎)を開催します

広島大学、長崎大学、福島県立医科大学によって平成28年4月に設置されたネットワーク型拠点「放射線災害・医科学研究拠点」は、平成30年1月に「第2回ふくしま県民公開大学」を福島市で、2月に「第2回国際シンポジウム」を長崎市で開催します。

第2回ふくしま県民公開大学（主管校：福島県立医科大学）

日時：平成30年1月20日（土） 13:00～16:10  
場所：とうほう・みんなの文化センター（福島市春日町5-54）

「復興からイノベーションへ ～皆で考えよう、福島未来～」をテーマに、震災後取り組んできた復興活動を、さらに国内外で幅広くお手本として通用するものにし、明るい未来づくりへ活かすため、次に私たちが考え、行うことは何かについて、シンポジウムに参加する中高校生・大学生の皆さんと日本の各界のトップリーダーが、会場と一緒に議論し、考え、イノベーションへつながるヒントを探ります。

第2回国際シンポジウム（主管校：長崎大学）

日時：平成30年2月3日（土）13:30～18:50  
2月4日（日） 9:00～12:45  
場所：長崎大学医学部良順会館（長崎市坂本1-12-4）

「For the Establishment of the Science of Resilience(復興学の確立に向けて)」をテーマに、アメリカ、フランス、ドイツ、韓国、台湾などの研究者を交え、講演やセッション、ポスター発表を行います。

放射線や関連諸科学の分野で世界的に著名な研究者による最先端の学術成果を踏まえ、更なる放射線災害・医科学研究の学術的基盤の確立を目指します。

これらの事業は、本研究拠点を構成する3大学がネットワーク型拠点の特徴を活かし研究チームを創設して、放射線災害・医科学研究に積極的に取り組む機関連携事業と共に力を注いでいる事業です。

【お問い合わせ先】

広島大学霞地区運営支援部研究支援グループ（TEL 082-257-5186）



第2回 ふくしま県民公開大学

# 復興から イノベーションへ

## ～皆で考えよう、福島未来～

震災後、取り組んできた復興活動は、課題を抱えた福島だからこそできた取り組みでした。

その取り組みを、さらに国内外で幅広くお手本として通用するものにし、  
明るい未来づくりへ活かすため、次に私たちが考え、行うことは何でしょうか？  
シンポジウムに参加する中高校生、大学生の皆さんと、各界のトップリーダーが、  
会場と一緒に議論し、考え、イノベーションへつながるヒントを探ります。

皆さんの福島への思いを  
聞かせてください  
一緒に福島と日本の未来を  
考えましょう



●パネリスト  
衆議院議員・  
自民党筆頭副幹事長  
小泉 進次郎 氏



●パネリスト  
クリエイティブ  
ディレクター  
佐々木 宏 氏



●パネリスト  
東京藝術大学  
名誉教授  
宮田 亮平 氏



●パネリスト  
宇宙飛行士  
山崎 直子 氏

平成30年

日時

# 1月20日(土)

13:00～16:10 (開場12:30)

会場

## とうほう・みんなの文化センター

住所：福島市春日町5-54 電話：024-534-9191

### 主なプログラム

- メッセージ  
「復興学」へのいざない / 未来へ向けて
- 高校生、大学生からの発表
  - 福島県立ふたば未来学園高等学校  
6つの探求テーマから選抜して発表
  - 福島県立磐城高等学校  
放送委員会  
KWN グローバルコンテスト 2017  
グランプリ受賞動画「Open.」から見た、  
非言語コミュニケーションの可能性について
  - 福島県立医科大学  
学生サークル Fukushima WILL  
「夏の災害医療セミナー 企画と運営  
～県外の大学と連携して～」
- ダイアログ  
ファシリテーター  
小出重幸 氏 (日本科学技術ジャーナリスト会議 理事)  
パネリストと発表者、会場の中高校生、大学生が、  
発表内容や福島の未来について意見交換をします。

※発表内容については予定です。

## 入場無料 (事前登録制)

## 定員300名

【申込締切】

平成30年1月12日(金)

定員に達した場合は、  
締切日前に受付を  
終了させていただきます。

申込方法

お申し込みはホームページより▶

<https://www.fmu.ac.jp/univ/inv/>



問い  
合せ

福島県立医科大学 医療研究推進課 研究推進係  
TEL: 024-547-1825 FAX: 024-581-5163

主催 放射線災害・医科学研究拠点 福島県立医科大学 広島大学 長崎大学

後援 (予定) 復興庁、福島県、福島県教育委員会、福島県市長会、福島県町村会、福島県医師会、公益社団法人福島県看護協会、  
アカデミア・コンソーシアムふくしま、福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、  
テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM



The 2nd International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center  
for Radiation Disaster Medical Science

# For the Establishment of the Science of Resilience

**February 3<sup>rd</sup> (Sat) & 4<sup>th</sup> (Sun), 2018**  
**Ryojun Hall, Nagasaki University Sakamoto Campus**

February 3<sup>rd</sup>, Sat

**Keynote lecture**

**Social impact of  
a radiation disaster and  
radiological protection studies**

Session 1

**Jacques Lochard (France)**

**Thierry Schneider (France)**

**Ryugo Hayano**

**Michio Murakami**

**Norisato Mitsutake**

**Radiation causality medicine**

Session 2

**Carol Iddins (USA)**

**Yuliya Lyamzima**

**Jin Kyung Lee (Korea)**

**Hung-Tsang Yen (Taiwan)**

February 4<sup>th</sup>, Sun

**Low dose radiation effects  
and health risk study**

Session 3

**Hajo Zeeb (Germany)**

**Takafumi Ishida**

**Satoshi Tashiro**

**Yoshiya Shimada**

主催 ネットワーク型共同利用・共同研究拠点  
放射線災害・医科学研究拠点  
広島大学原爆放射線医科学研究所  
長崎大学原爆後障害医療研究所  
福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター  
後援 放射線被曝者医療国際協力推進協議会 (HICARE)  
長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM)

お問い合わせ先  
長崎大学医歯薬学総合研究科  
総務課研究支援担当  
Email: gakujutu\_gakuji@ml.nagasaki-u.ac.jp  
Tel: +81- (0) 95-819-7198  
Fax: 095-819-7199  
Web: <http://home.hiroshima-u.ac.jp/housai/>





平成29年12月22日

文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム  
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

第7回国際シンポジウム  
「放射線災害復興学における課題と展望～transdisciplinary approach の実践～」

広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムでは、第7回国際シンポジウム「放射線災害復興学における課題と展望～transdisciplinary approach の実践～」を下記のとおり広島大学霞キャンパスで開催します。

放射線災害は、被ばくや環境汚染により直接的に人々の健康を脅かすのみならず、被災地の生活を一変させることで、間接的にも極めて深刻な影響を及ぼします。そのような問題を俯瞰的に捉え、総合的に対応する新たな学問分野が、本プログラムが構築してきた放射線災害復興学です。

本シンポジウムでは、福島第一原子力発電所事故の影響と課題を議論します。これらの課題を解決するために、学問分野の壁や行政・民間等の立場を越えた取組（transdisciplinary approach）が重要であることを放射線災害復興学では明らかにしてきました。そこで、産学官の参加者をお招きして transdisciplinary approach による課題の解決を目指します。

記

- 日 時：(Day0) 平成30年1月26日(金) 13:00～17:00  
学生会議  
(Day1) 平成30年1月27日(土) 14:00～18:20  
基調講演・講演・ラウンドテーブル・学生ポスター発表  
(Day2) 平成30年1月28日(日) 10:00～17:30  
基調講演・講演・構造的対話
- 会 場：(Day0) 広島大学霞キャンパス 臨床講義棟1階 第5講義室  
(Day1, Day2) 広島大学霞キャンパス 広仁会館  
広島県広島市南区霞1-2-3 TEL: 082-257-5098  
URL: <http://www.koujin-med.jp/hall/index.html>

参加費：無料

事前申込：必要（当日の受付も可能）

【お問い合わせ先】

教育室コラボレーションオフィス

フェニックスリーダー育成プログラム事務室

URL: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/phoenixlp>

TEL: 082-424-6821 FAX: 082-424-6821

Email: [phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp)



HIROSHIMA UNIVERSITY 広島大学

Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative) for  
Renaissance from Radiation Disaster  
The 7th International Symposium

放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム  
第7回国際シンポジウム



# Challenges and Prospects of Radiation Disaster Recovery Studies – Implementation of Transdisciplinary Approach – 放射線災害復興学における課題と展望 – Transdisciplinary Approachの実践 –

## DATE, VENUE / 開催日, 会場

January 27th - 28th, 2018 (Sat. & Sun.)

Koujin Conference Hall,  
Kasumi Campus, Hiroshima Univ.

平成30年1月27日(土)～28日(日)  
広島大学 霞キャンパス 広仁会館

## ADMISSION FEE / 参加費

Free / 無料

## LANGUAGE / 使用言語

English • Japanese / 英語 • 日本語  
Simultaneous translation provided  
同時通訳あり

## REGISTRATION / 参加申し込み

Registration form  
参加申込用QR

<https://goo.gl/forms/yiCWfUz3Kj5EUtKF2>





Radiation disasters not only threaten the health of people directly from radiation exposure and environmental pollution but also seriously changes the way of life in the affected area. The 7th International symposium will clarify and discuss solutions of the issues related to the Fukushima Nuclear Power Plant accident to share the challenges and prospects for the future, having in mind the transdisciplinary approach which is collaborations beyond the disciplines and sectors such as public administrations and private enterprises.



放射線災害は、被ばくや環境汚染により直接人々の健康を脅かすのみならず、被災地の生活を一変させることで、間接的にも極めて深刻な影響を及ぼします。そこで、第7回を迎える本シンポジウムでは、福島原子力発電所事故の影響による問題の解明および解決の状況について、学問分野の壁や、行政や民間といった立場を超えた取組 Transdisciplinary approach の概念に基づき、今後の課題と展望を検討し共有します。

## Program

### DAY 0 : January 26th, 2018 (Fri.)

13:00 ~ Next-gen event(English only)/ 学生会議 (英語のみ)

### DAY 1 : January 27th, 2018 (Sat.)

14:00 Student Poster Presentation / 学生ポスター発表

14:30 Opening Ceremony / 開会式

14:40 Keynote Lecture / 基調講演

**Thierry Schneider**

(Director of CEPN フランス放射線防護評価センター センター長)

15:15 Session1: Environmental Impacts and Challenges  
環境影響と課題

**Seiichi Nohara 野原 精一**

(Leader, Center for Environmental Biology and Ecosystem,  
National Institute for Environmental Studies  
国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター  
生態系機能評価研究室 室長)

**Yuichi Onda 恩田 裕一**

(Chief Administrator of Center for Research in Isotopes and  
Environmental Dynamics, Tsukuba University  
筑波大学 アイソトープ環境動態研究センター センター長)

16:05 Break / 休憩

16:20 Session2: Round Table / ラウンドテーブル

17:20 Student Poster Presentation / 学生ポスター発表

18:30-20:00 Reception Party / 懇親会

Participation fee for reception party is required  
懇親会は有料となります

### Access / Campus Map

Koujin Conference Hall, Kasumi campus  
1-2-3 Kasumi, Minami-ku, Hiroshima City,  
Hiroshima, Japan 734-8553

Access:(Jap.)<https://www.hiroshima-u.ac.jp/access>

(Eng.)<https://www.hiroshima-u.ac.jp/en/access>



Campus Map

### Contact

Phoenix Leader Education Program Office

Tel: +81-(0)82-424-4689 Fax: +81-(0)82-424-6821

Email: phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp

Web: <http://phoenixprogramlp.hiroshima-u.ac.jp/en/>

### DAY 2: January 28th, 2018 (Sun.)

10:00 Opening Ceremony / 開会式

10:10 Special Lecture / 特別講演

**Christopher Clement**

(Scientific Secretary of ICRP 国際放射線防護委員会 事務局長)

10:45 Session3: Health Impacts and Challenges / 健康影響と課題

**Elisabeth Cardis** 【Keynote Lecture / 基調講演】

(Head of Radiation Program, Barcelona Institute of Global Health (ISGlobal)  
バルセロナグローバルヘルス研究所 放射線プログラム長)

**Tom Hei**

(Prof. and Vice-chair of Radiation Oncology at Columbia University  
コロンビア大学 教授)

**Masaharu Maeda 前田 正治**

(Prof. of Fukushima Medical University 福島県立医科大学 教授)

**Akira Ohtsuru 大津留 晶**

(Prof. of Fukushima Medical University 福島県立医科大学 教授)

12:45-14:00 Lunch Break / 昼食

14:00 Session4: Social Impacts and Challenges / 社会的影響と課題

**Kai Vetter** 【Keynote Lecture / 基調講演】

(Prof. of University of California, Berkeley カリフォルニア大学バークレー校 教授)

**Hiroshi Kainuma 開沼 博**

(Associate Prof. of Ritsumeikan University 立命館大学 准教授)

**Yuji Tsutsui 筒井 雄二**

(Prof. of Fukushima University 福島大学 教授)

15:25 Break / 休憩

15:40 Session5: Structured Dialogue / 構造的対話

**Chair 座長: Jacques Lochard**

(Vice-Chair of ICRP 国際放射線防護委員会 副委員長)

**Tsunekazu Toda 戸田 常一**

(Prof.(Special Appointment), Hiroshima University 広島大学特任教授)

17:40 Poster Presentation Award / ポスター発表表彰  
Closing Ceremony / 閉会式

Round Table, Structured Dialogue Participants /  
ラウンドテーブル、構造的対話登壇予定者

**Ryoko Ando 安東 量子** (Ethos in Fukushima 福島のエートス)

**Tateo Arimoto 有本 建男** (GRIPS 政策研究大学院大学)

**Yuzo Mampuku 万福 裕造** (NARO 農業・食品産業技術総合研究機構)

**Ahmed Meghziifene** (IAEA 国際原子力機関)

**Albert Wiley** (REAC/TS 米国オークリッジ科学技術研究所)

**Motoyuki Yamada 山田 基幸** (NUMO 原子力発電環境整備機構)

**Tetsuo Yasutaka 保高 徹生** (AIST 産業技術総合研究所)

\* In addition to lecturers 講演者も含む



平成29年12月22日

## 広島大学大学院文学研究科主催

### 次郎丸太鼓・広響による「リテラコンサート」を開催します

広島大学大学院文学研究科では、社会連携事業の一環として、広島交響楽団の協力を得て、下記のとおり「リテラコンサート」を開催いたします。

子どもから大人まで幅広い世代の方々にお越しいただきたく、未就学児の方も入場いただけます。皆様お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

#### 記

【日時】 平成30年2月4日（日）  
13：30 開場、14：00 開演（16：00 終了予定）

【会場】 広島大学東広島キャンパス内  
サタケメモリアルホール

#### 【プログラム】

第1部：次郎丸太鼓のステージ

第2部：広島交響楽団による金管五重奏のステージ  
空想・夢・おもちゃ  
ミュージック・ホール組曲 ほか

第3部：広島交響楽団による金管五重奏のステージ  
新旧ドラえもんメドレー  
ラテン de シブリ ほか

※入場無料・事前申込不要

#### 【お問い合わせ先】

広島大学文学研究科支援室 難波 さゆり  
TEL:082-424-6604  
E-mail: bunkoho@hiroshima-u.ac.jp

広島大学  
大学院文学研究科主催  
2018

子どもから大人まで楽しめる

# リテラコンサート



## Littera Family Concert

日時

2018. 2/4 日  
13:30 開場 14:00 開演  
(終了予定時間16:00)

場所

広島大学(東広島キャンパス)  
サタケメモリアルホール

### Program

※各部の間に15分間休憩があります

- 第1部 次郎丸太鼓のステージ  
・次郎丸太鼓  
・宴 ほか
- 第2部 広島交響楽団による金管五重奏のステージ  
・空想・夢・おもちゃ  
・ミュージック・ホール組曲 ほか
- 第3部 広島交響楽団による金管五重奏のステージ  
・新旧ドラえもんメドレー  
・ラテン de ジブリ ほか

### Performer

#### 広島交響楽団金管五重奏

1st トランペット	亀島 克敏
2nd トランペット	金井 晶子
ホルン	渡部奈津子
トロンボーン	清澄 貴之
チューバ	古本 大志

入場無料

未就学児も  
参加できます

### リテラ

リテラ(Littera)はラテン語で文字を意味する語で、英語の文学(Literature)の語源となっています。広島大学大学院文学研究科は、このリテラの名の下に、社会に開かれた研究科をめざして積極的な活動を展開しています。

### お問い合わせ先

広島大学文学研究科 運営支援グループ  
TEL: 082-424-6604 FAX: 082-424-0315  
E-mail: bunkoho@hiroshima-u.ac.jp

